

一 日本草地学会 弘前大会 日程 一

3月20日(月)		8:00	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00	18:00	19:00
受付場所	50周年記念会館 1Fホール						受付						
みちのくホール	50周年記念会館 1F						加職文撰	総会, 学会賞授与式, 受賞講演					
岩木ホール	50周年記念会館 2F			評議員会	英文誌セミナー								
控え室	50周年記念会館 1F会議室			会員控え室(食事可)									
懇親会会場	アートホテル弘前シティ												懇親会

3月21日(火)		8:00	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00	18:00	19:00
受付場所	総合教育棟 3F ロビー			受付、賛助会員展示									
A会場	総合教育棟 306講義室		口頭発表				口頭発表						
B会場	総合教育棟 305講義室		口頭発表				口頭発表			企画シンポ2「草地・飼料作における獣害の実態と被害対策への展望」			
C会場	総合教育棟 309講義室		口頭発表				口頭発表			企画シンポ3「北の大地の低投入型酪農の可能性とその効果」			
D会場	総合教育棟 310講義室		シニア発表				口頭発表			企画シンポ4「草地生態系とそのモデル研究」			
E会場	総合教育棟 303講義室						国際情報担当委員会						
F会場	総合教育棟 304講義室						若手の会ランチャイムセミナー 和文誌・英文誌合同編集委員会						
ポスター発表会場	学生会館3F 大集会室		ポスター展示				ポスター発表(奇数)						
会員控え室	総合教育棟 302講義室			会員控え室									

3月22日(水)		8:00	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00	18:00	19:00
受付場所	総合教育棟 3Fロビー	受付、賛助会員展示											
A会場	総合教育棟 306講義室	企画シンポジウム「多様な植生を活用した放牧家畜生産の展望と課題」											
B会場	総合教育棟 305講義室												
C会場	総合教育棟 309講義室	草地球用語委員会											
D会場	総合教育棟 310講義室	草地球用語委員会 優秀若手発表賞 審査委員会											
E会場	総合教育棟 303講義室	小集会「飼料作物育種における種子増殖の現状と課題」											
F会場	総合教育棟 304講義室	企画シンポジウム「植生をめぐめる微生物の生態学」											
ポスター発表会場	学生会館 3F大集会室	ポスター発表(開数)	ポスター展示										ポスター撤去
会員控え室	総合教育棟3F 302講義室	会員控え室											

## 会場へのアクセス

### 【青森空港から】

バス（約 50 分）。弘前市内（弘前バスターミナル）行きのバスにご乗車いただき、JR 弘前駅前下車下さい。

### 【JR 弘前駅から】

徒歩（約 20 分）

タクシー（約 5 分）

バス（約 15 分）

JR 弘前駅前（中央口）バスターミナルの 3 番乗り場より「小栗山・狼森線」または「学園町線」にご乗車いただき「弘前大学前」で下車下さい（料金 170 円）。

時刻表は下記 URL を参考にして下さい。

[http://www.konanbus.com/wordpress/wp-content/uploads/2016/11/timetable\\_hirosaki02\\_w.pdf](http://www.konanbus.com/wordpress/wp-content/uploads/2016/11/timetable_hirosaki02_w.pdf)

### 【自家用車】

大学内には来賓用の駐車スペースがありますが、駐車できる台数に限りがあります。お車でのご越しの方は事前に大会運営委員会（[sugi@hiroskai-u.ac.jp](mailto:sugi@hiroskai-u.ac.jp)）までご連絡下さい。

バス時刻表（網掛けは祝日運休）

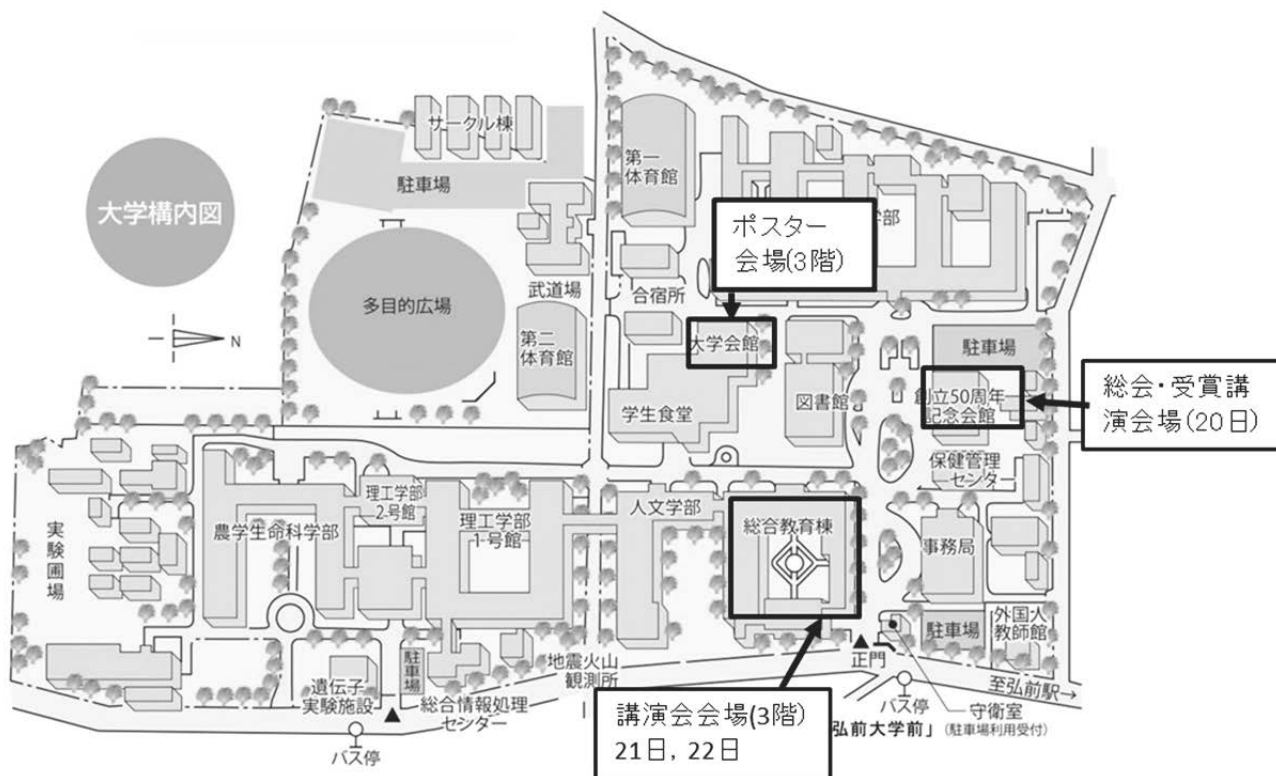
### JR 弘前駅から会場までのアクセス



JR弘前駅発	弘前大学着	弘前大学発	JR弘前駅着
7:45	7:52	11:26	11:50
7:55	8:03	11:41	12:05
8:00	8:07	11:56	12:20
8:15	8:22	12:11	12:35
8:30	8:37	12:26	12:50
8:45	8:52	12:41	13:05
9:00	9:07	12:56	13:20
9:15	9:22	13:11	13:35
9:30	9:37	13:26	13:50
9:45	9:52	13:41	14:05
10:00	10:07	13:56	14:20
10:15	10:22	14:11	14:35
10:30	10:37	14:26	14:50
10:45	10:52	14:41	15:05
11:00	11:07	14:56	15:20
11:15	11:22	15:11	15:35
11:30	11:37	15:21	15:45
11:45	11:52	15:31	15:55
12:00	12:07	15:41	16:05
12:15	12:22	15:51	16:15
12:30	12:37	16:01	16:25
12:45	12:52	16:11	16:35
13:00	13:07	16:21	16:45
13:15	13:22	16:31	16:55
13:30	13:37	16:41	17:05
13:45	13:52	16:51	17:15
14:00	14:07	17:01	17:25
14:15	14:22	17:11	17:35
14:30	14:37	17:26	17:50
14:45	14:52	17:41	18:05
15:00	15:07	17:56	18:20
15:15	15:22	18:11	18:35
15:30	15:37	18:31	18:55

## 会場マップ（弘前大学文京キャンパス）

（ポスター会場は講演会場正面の大学会館 3F です）



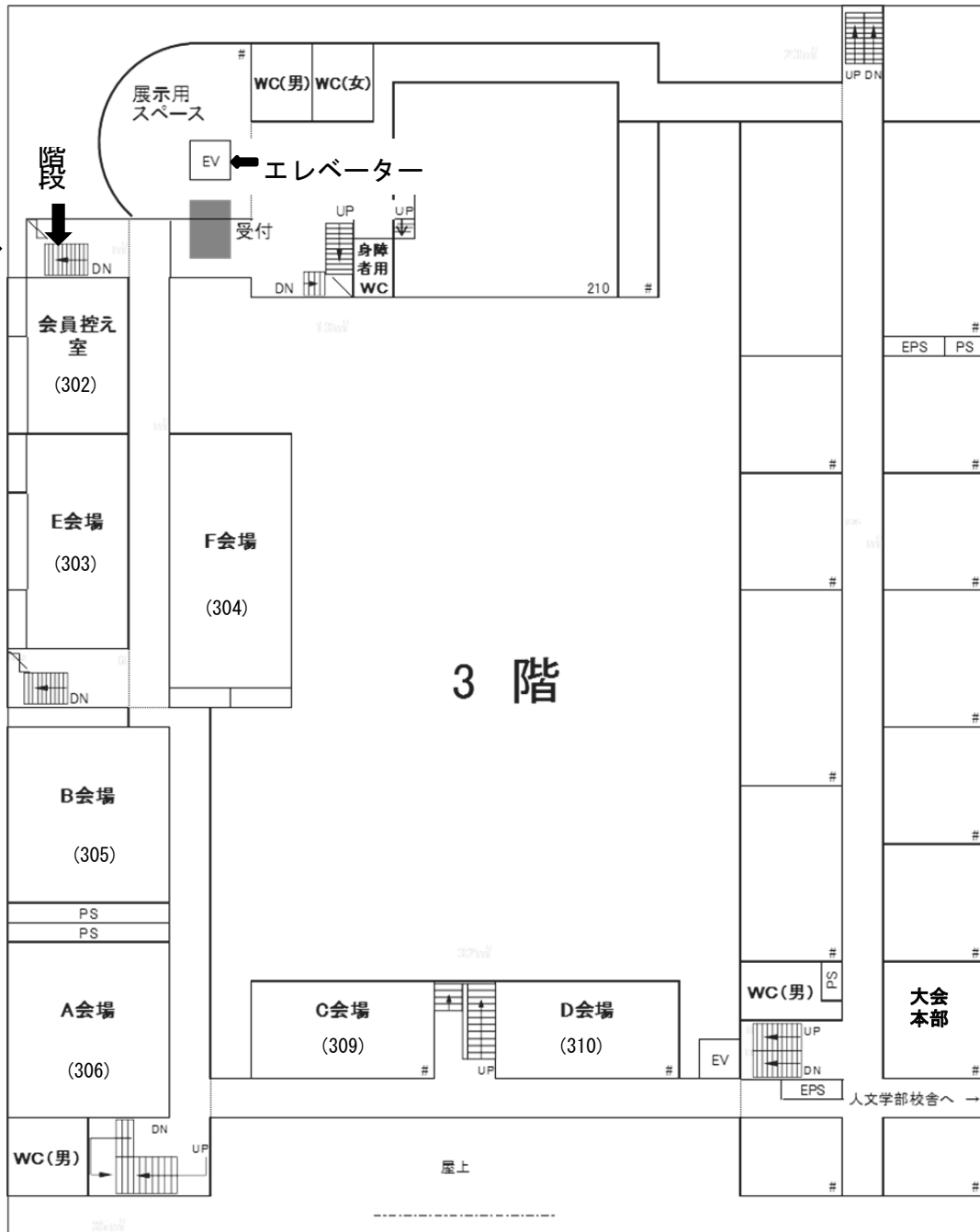
## 大学周辺コンビニ



# 講演会場マップ 大学正門左側建物（総合教育棟）3階

正門

入口



3 階

## －企画シンポジウム、企画集会、小集会のご案内－

### 企画シンポジウム 1

#### 「多様な植生を活用した放牧家畜生産の展望と課題」

日時：3月22日（水）、9:30－11:30

場所：弘前大学 A 会場（306 講義室）

企画者：小倉振一郎（東北大学）・八代田真人（岐阜大学）  
・川村健介（国際農林水産業研究センター）

我が国の植生は多様な植物種で構成され、その多くは飼料資源として利用することができる。すでに、中山間地域の遊休農地などを家畜の放牧で再活用する取り組みが各地で行われているが、植物種の豊富さが家畜生産性や健康性にもたらす効果についてはよく分かっていない。提案者らは、2014年度から共同研究を行い、この課題の解明に取り組んできた。このシンポジウムでは、その成果を中心に、家畜の栄養、行動、および土地の持続的利用の観点から放牧地の植物種の豊富さが家畜生産性にもたらす効果について、その展望と課題について紹介したい。

(1) 小倉振一郎（東北大学）

多様な植生下における放牧家畜の養分摂取の特徴

(2) 八代田真人（岐阜大学）

多様な植生下における放牧家畜の採食行動のモニタリング

(3) 土居和也（岐阜大学）

半自然草地における植生の遷移に伴う放牧ヤギの栄養状態の変化

(4) 川村健介（国際農林水産業研究センター）

放牧地におけるドローンの利用と課題

### 企画シンポジウム 2

#### 「草地・飼料作における獣害の実態と被害対策への展望」

日時：3月21日（火）、15:00－17:00

場所：弘前大学 B 会場（305 講義室）

企画者：塚田英晴（麻布大学）

野生動物による全国の農作物被害額は近年では毎年200億ほどで推移し、依然として深刻な状況にある。このうち30～40億円程度を牧草を含む飼料作物が占める。農林水産省は、平成28年度にシカ、イノシシを50万頭捕獲する目標を掲げ、予算も計上して積極的な対策に取り組んでいる。本企画集会では、北海道から中国地域まで、第一線で獣害対策に取り組む演者からの現状報告を通

じ、今後の被害対策について展望する。

- (1) 亀井利活(地方独立行政法人北海道立総合研究機構環境科学研究センター)  
北海道におけるエゾシカとヒグマによる草地・飼料作物への食害の現状と今後の課題
- (2) 出口善隆(岩手大学)  
ツキノワグマによる飼料作物被害—東北地方の事例—
- (3) 竹田謙一(信州大学)  
牧草地におけるニホンジカの捕獲
- (4) 上田弘則(農研機構 西日本農業研究センター)  
イノシシによる牧草地被害の実態とその対策

### 企画シンポジウム3

#### 「北の大地の低投入型酪農の可能性とその効果」

日時：3月21日(火)、14:30-16:30

場所：弘前大学 C会場(309講義室)

企画者：小路敦(農研機構 北海道農業研究センター)

広大な牧草地でのんびりと牧草を食む乳牛の光景は「北海道酪農」のイメージとして定着しているが、実際には、放牧飼養される乳牛は全体の3割程度に過ぎず、TDN自給率は半分程度であり、施肥のほとんどは化学肥料に依存している。このような中、「土」「草」「家畜」の関係と機能を重視した放牧を主体とする低投入型の酪農経営に焦点を当て、実践者による報告を行うとともに、生産や経営状況、環境に及ぼす効果について議論する。

- (1) 小路 敦(農研機構 北海道農業研究センター)  
シンポジウム趣旨説明、北海道東部における低投入型酪農の生態学的観点からの特徴
- (2) 長坂晶子(道総研 林業試験場)  
風蓮湖流入河川の流域管理に際して低投入型酪農に期待すること
- (3) 吉野宣彦(酪農学園大学)  
酪農経営の収益性格差と低投入酪農の可能性
- (4) 森高哲夫(マイペース酪農交流会事務局)  
北海道東部における低投入で持続的な酪農の取り組みと将来展望

## 企画シンポジウム 4

### 「草地生態系とそのモデル研究」

日時： 3 月 21 日（火）、14:30－16:30

場所： 弘前大学 D 会場（310 講義室）

企画者： 塩見正衛（茨城大学）

草地生態系は、農家・草地(草原)・家畜・自然環境の複雑な絡み合いの中で、時事刻々と変化を遂げながら、人類に食糧を提供しつづけてきた。草地はまた地球陸面積の 1/3 を占めており、ここに生活する人々は 5 億人以上で、地域環境から地球環境まで大きな影響を及ぼしている。そのように広大で複雑な絡み合いを対象にした草地の研究は、システム概念で把握されることが要請される。本シンポジウムでは、草地システムの研究方法と新たな方向を議論する。

(1) 大久保忠旦（宇都宮共和大学）

Okubo-Jacquard model の発想と概略、および草地学へのシステム論導入の経緯

(2) 板野志郎（新潟大学）

草地を利用した畜産におけるシステムモデル

(3) 築城幹典（岩手大学）

草地における環境影響評価モデル（放射能モデル）

(4) 安田泰輔（山梨県富士山研究所）

植生の観測からモデリングへ

(5) 唐艶鴻（北京大学）

青海・チベット草原生態系の炭素循環に及ぼす環境変化の影響

## 企画シンポジウム 5

### 「植生をめぐる微生物の生態学」

日時： 3 月 22 日（水）、9:30－11:30

場所： 弘前大学 F 会場（304 講義室）

企画者： 菅原幸哉（農研機構 畜産研究部門）

植物は様々な微生物と相互作用しながら植生を形成しており、こうした相互作用は、自然・半自然の植生のみならず、農業・園芸、また、広くは地球環境全体にも大きく影響していることが明らかになってきている。草地学における微生物研究は今後、どうあるべきか、開催地、青森県での自然栽培農園での研究から見えてきたそのヒント、また、近年の関連研究からのトピックス等を交えて論議する。



- (1) 杉山修一・平久江歩美（弘前大学）  
奇跡のリンゴとマイクロバイーム
- (2) 山下雅幸・澤田 均（静岡大学）  
グラスエンドファイトが種子食性昆虫および宿主草種へ及ぼす影響
- (3) 齋藤勝晴（信州大学）  
菌根共生の生態機能を分子から探る
- (4) 菅原幸哉（農研機構 畜産研究部門）  
飛ぶ鳥を落とす植物共生菌？～グラスエンドファイトの功罪と応用研究の現状

## 企画集会

### 「周年親子放牧による高収益繁殖経営を目指して」

日時：3月21日（火）、15:00－17:00

場所：弘前大学 F会場（304講義室）

企画者：山本嘉人（農研機構 畜産研究部門）

高齢化した繁殖農家の離農に伴う肉用子牛の出生頭数減少により子牛価格が高騰しており、肉用子牛の安定供給は喫緊の課題である。そこで、大幅な軽労化が見込める放牧メリットを最大限に活用した周年親子放牧技術により、畜舎を必要とせず初期投資を抑えることで新規参入も視野に入れた、省力低コストで収益力を高めた繁殖経営を確立させる。本企画集会では生産現場（繁殖経営）の現状を把握するとともに、「周年親子放牧」普及に向けて解決すべき課題の明確化、適用可能技術の検討等を行う。

- (1) 山本嘉人（農研機構 畜産研究部門）  
趣旨説明
- (2) 恒川磯雄（農研機構 畜産研究部門）  
肉用牛繁殖経営の現状と課題
- (3) 木戸恭子（農研機構 畜産研究部門）  
親子放牧の現状と課題
- (4) 池田堅太郎（農研機構 東北農業研究センター）  
冬季放牧の現状と課題
- (5) 討論

## 小集会 1

# 「飼料作物育種における種子増殖の現状と課題 ③マメ科牧草における国内外での採種状況の現状および課題と国内における採種技術と育種改良」

日時：3月22日（水）、9:30－11:30

場所：弘前大学 E会場（303講義室）

企画者：奥村 健治（農研機構 北海道農業研究センター）、

川口 優（家畜改良センター）、清 多佳子（農研機構 畜産研究部門）

我が国の飼料作物の多くは、他の作物とは異なり海外で種子増殖される。飼料作物の種子を農家に安定供給するためには、国内の育種の段階から海外増殖を見据えた品種開発が必要である。そのため飼料作物種子増殖の現状と課題を共有し、育種を行う上で対応すべき事項を再認識することを目的に本小集会を開催する。第3回の今回は、アルファルファとクローバを中心にマメ科牧草における国内外の種子増殖の現状と課題をあらためて認識し、さらにマメ科牧草の採種のみならず農業生産に重要な役割を果たしているミツバチなど訪花蜂についても情報を共有することを目的に行う。

### 1 はじめに（基調講演）

奥村健治（農研機構 北海道農業研究センター）

### 2 民間種苗会社におけるマメ科牧草の育種と海外採種の現状（仮）

谷津英樹（雪印種苗株式会社）

### 3 国内におけるマメ科牧草原種子の採種状況および採種技術の改良について（仮）

川口 優（家畜改良センター）

### 4 マメ科牧草と訪花蜂について

山時 文昌（（一社）日本養蜂協会）

司会 農研機構 畜産研究部門 内山 和宏

### 5. 意見交換

## 小集会 2

### 「教えて先輩！～研究・就職の苦労話（ウラ話）～」

日時：3月21日（火）、12:00－13:00

場所：弘前大学 E会場

企画者：吉原 佑（三重大学）

若手の会では、若手研究者の確保に向けた就職サポートを現在の最重要課題として位置づけています。草地学会の次世代を担う若手研究者の就職は、若手の会の活動を活性化するだけでなく、今後の運営を継続していくうえでも重要です。また近年、学会員の減少が続く学会全体の運営にも関わる重要な課題であると思われます。

これまでの夏合宿等で実施してきたアンケートから、研究者を目指す、または就職を考える時期にある学生にとって、研究上の苦労話に高い関心があることがわかってきました。しかしながら、これまで学生が他研究機関の研究者から研究上の苦労話を聞く機会は限られているのが現状です。研究職への興味、進路決定には、研究への興味に加え、大学以外の研究機関への就職状況や研究所での研究生活について知ることも重要ではないでしょうか。そこで今年の小集会では、草地学会の先輩研究者による「研究・就職の苦労話」を企画します。研究生活、とりわけ、公務員試験、海外での研究、就職後の学位取得には苦労話がつきものです。これから研究者を目指す学生のみならず、就職後、学位取得や留学を目指す若手研究者にも参考になることが多くあるものと期待しています。

#### （1）三ツ橋昇平（農研機構 畜産研究部門）

（仮）公的機関への就職の実際—農学系公務員試験ミニ講座—

#### （2）岡元英樹（道総研上川農業試験場）

（仮）道総研での研究生活—学位取得から海外での研究まで—

#### （3）浦川修司（山形大学）

（仮）県職員・機構職員・大学職員の3つの職場を経験して

## 学会大会における求職中のポスドク・学生の就職支援

日本草地学会 若手の会

若手の会では、『若手会員の研究職への就職サポート』を実施しています。本活動では、求職側（ポスドクや博士・修士学生等）と求人側（研究所・大学・企業等）の交流の場である学会大会において、就職側が求職中であることを、大会期間中のリボン装着や講演要旨、発表資料内への明示によってアピールすることで、若手会員の就職に役立ててもらえるものと期待しています。またオプションとして、求職者本人から多くの大会参加者に直接アピールできる「アピールタイム」を、総会の前に1人あたり1分間ご用意しています。活動内容の詳細は下記をご覧ください。

本活動への応募は、大会エントリーページの下方（若手賞申し込みの下）、『「研究職求職中」を要旨に明示する』の項目からお申し込みいただけます。また同時に選択いただく「現在のポスト、学年」、「アピールタイムに申し込む」の情報をもとに、リボンやプログラムに記載するシンボルを割り当てます。

### 若手会員の就職サポート内容

#### 1. 求職中であることを示すリボン（もしくはバッジ）を装着

- 学会期間中に求職中であることを示すリボンを装着することで、求人側の皆様に明示する。
- 求職の状況（PD や D3 などすぐに職が必要な人、D1, D2 やマスターなどで急ぎはしないが将来的に希望する人）などに応じて、リボンの色を使い分ける（表1）。

#### 2. プログラムに求職中であることを示すシンボルを追加

- プログラム中の発表課題番号の右（もしくは左）の分かりやすい箇所に、「求職中の学生・ポスドク」であることが分かるシンボルを示す（表1）。

#### 3. 発表資料（プレゼン・ポスター）に求職中ロゴを掲示

- プレゼン発表資料（PDF）やポスターに、求職中ロゴを入れる（表1）。

表1 求職中であることを明示する方法

明示方法	求職の状況			
	ポスドク	博士課程3年	博士課程1-2年	修士課程
1. リボン	赤	ピンク	黄	青
2. プログラム	★	☆	◎	●
3. 発表資料用ロゴ	 CAREER EXPLORER	 CAREER EXPLORER	 CAREER EXPLORER	 CAREER EXPLORER

#### 4. アピールタイムの設置

- 総会前に求職中のポスドク・学生が、発表課題番号と研究概要、個性をアピールする時間を設置する。各1分の持ち時間とする。求人側の皆様に、興味を持った発表課題の話を聞きに会場へ足を運んでいただくことを期待する。

口頭発表プログラム 3月21日				口頭発表プログラム 3月21日			
A会場 (総合教育棟3F306教室)				B会場 (総合教育棟3F305教室)			
時間	座長	2. 造成・管理・栽培		時間	座長	1. 草地生態・システム	
8:30	進藤和政	201	ガレガの播種期および再生草刈取期の翌年収量への影響 ○奥村健治・佐藤広子・井上 聡・廣井清貞 (農研機構・北農研)	8:30	中神弘詞	101	果樹園・人工草地・自然草地・地球環境のシステムモデル ○塩見正衛 (茨城大学)
8:45		202	北海道根釧地域におけるガレガ栽培の可能性 ○中村直樹 <sup>1</sup> ・林 拓 <sup>2</sup> ・松本武彦 <sup>1</sup> ・牧野司 <sup>1</sup> ・角谷芳樹 <sup>1</sup> (道総研根釧農業試験場・ <sup>2</sup> 道総研天北支場)	8:45		102	種数モデルとそれを利用した草本植物の種数の簡易な推定 ○塩見正衛 <sup>1</sup> ・陳 俊 <sup>2</sup> (茨城大学・ <sup>2</sup> 西北農林科技大学・動物)
9:00		203	ペレニアルライグラス混播採草地の特性 3. 草地造成後の植生の推移 ○須藤賢司 <sup>1</sup> ・大塚博志 <sup>2</sup> ・青木康浩 <sup>3</sup> (北農研・ <sup>2</sup> ホクレン・ <sup>3</sup> 北農研)	9:00		103	早川仮説の再評価 -地域社会システム論から草原学への可能性 ○佐々木章晴 (北海道当別高校園芸デザイン科)
9:15	東山雅一	204	混播割合と刈取回数がオーチャードグラス、ペレニアルライグラス混播草地の草種構成に及ぼす影響 ○有田敬俊 <sup>1</sup> ・二門世 <sup>1</sup> ・岡元英樹 <sup>1,2</sup> ・前田浩貴 <sup>1</sup> ・大城敬二 <sup>1</sup> ・岡一義 <sup>1,3</sup> ・吉川恵哉 <sup>1,4</sup> ・安達美江子 <sup>5</sup> ・竹田芳彦 <sup>6</sup> (道総研天北支場・ <sup>2</sup> 現：道総研上川農試・ <sup>3</sup> 現：宗谷農改本所・ <sup>4</sup> 現：日高農改本所・ <sup>5</sup> ホクレン畜産技術実証センター・ <sup>6</sup> ホクレン農業協同組合連合会)	9:15	堤道生	104	生産技術体系を用いた牛乳生産の環境影響評価 ○リエラ麻子 <sup>1</sup> ・日野澤義子 <sup>2</sup> ・築城幹典 <sup>3</sup> (岩手大院連農・ <sup>2</sup> 三本木農業高校・ <sup>3</sup> 岩手大農)
9:30		205	寒地型牧草地へ簡易播種したペレニアルグラスおよびメドウフェスクの播種後翌年および翌々年における秋季収量 ○小路敦 (農研機構・北農研)	9:30		105	採草地からの牧草種子拡散の定量化：農業と生物多様性保全を両立する草地管理に向けて ○江川知花・芝池博幸 (農研機構 農環研センター)
9:45		206	チモシー2番草収穫後の再生草を利用した晩秋期の放牧期間延長 ○八木隆徳・須藤賢司 (農研機構・北農研)	9:45		106	8年間の禁牧処理による外来牧草の減少と野草の増加 ○西脇亜也 (宮崎大学農学部)
10:00		休憩		10:00		休憩	
10:15	服部育男	207	飼料用イネの乾田不耕起直播栽培の実証 ○小林富雄 <sup>1</sup> ・橋 保宏 <sup>2</sup> ・水流正裕 <sup>1</sup> ・後藤和美 <sup>1</sup> (長野県畜産試験場・ <sup>2</sup> 農研機構革新工学センター)	10:15	小路敦	3. 放牧・家畜管理・行動	
10:30		208	寒冷地水田で栽培した「たちすずか」と「たちあやか」の生育特性と飼料特性の解明 ○福室純大 <sup>1</sup> ・菅井成毅 <sup>1</sup> ・久保聖諒 <sup>1</sup> ・松山裕城 <sup>1</sup> ・堀口健一 <sup>1</sup> ・浦川修司 (山形大学農学部)	10:30		301	牛の採食忌避を活用したウリ科カボチャ属作物の不耕起直播栽培 ○池田堅太郎 (農研機構 東北農業研究センター)
10:45		209	寒冷地における飼料用米向け新系統「W1」、「W8」の生育特性と飼料特性の解明 ○久保聖諒 <sup>1</sup> ・菅井成毅 <sup>1</sup> ・福室純大 <sup>1</sup> ・松山裕城 <sup>1</sup> ・堀口健一 <sup>1</sup> ・池田浩輔 <sup>2</sup> ・浦川修司 <sup>1</sup> (山形大学農学部・ <sup>2</sup> トヨタ自動車)	10:45		302	放牧条件下の肉用繁殖牛を対象にした発情監視機の試作 ○進藤和政・平野 清・井出保行・浅野桂吾 (農研機構畜産研究部門)
					303	育成牛の周年放牧に向けた放牧飼養体系の評価 ○浅野桂吾・平野 清・中尾誠司・進藤和政・下田勝久・井出保行 (農研機構畜産研究部門)	

口頭発表は講演時間12分、質疑応答3分（一鈴：10分、二鈴：12分、三鈴：14分30秒）です。時間厳守。また、プロジェクターが不調の場合には、講演要旨を用いて発表してください。

口頭発表プログラム 3月21日				口頭発表プログラム 3月21日			
C会場 (総合教育棟3F309教室)				D会場 (総合教育棟3F310教室)			
時間	座長	4. 飼料調製加工・貯蔵・利用		時間	座長	シニア発表	
8:30	井上秀彦	401	<p>粳米サイレージ調製における乳酸菌資材と乳牛の嗜好性</p> <p>○小橋有里<sup>1</sup>・北村 亨<sup>2</sup>(<sup>1</sup>新潟県農業総合研究所畜産研究センター・<sup>2</sup>雪印種苗(株))</p>	8:30	梨木守	S01	<p>JICA シニア海外ボランティア制度と応募、成果と評価などー</p> <p>○田村良文(元JICA シニア海外ボランティア)</p>
8:45		402	<p>粳米サイレージの梱包形態と調製方法が発酵品質に及ぼす影響</p> <p>○大川夏貴<sup>1</sup>・北川まき<sup>1</sup>・中村寿男<sup>2</sup>・下田茂穂<sup>3</sup>・鶴田克之<sup>4</sup>・鶴田勉<sup>1</sup>(<sup>1</sup>熊本農研セ畜研・<sup>2</sup>現:熊本県畜産課・<sup>3</sup>ヤンマーアグリジャパン(株)・<sup>4</sup>現:熊本農研セ草研)</p>	8:45		S02	<p>搾乳ロボット開発競争の勝者オランダ</p> <p>○市戸万丈(元:畜草研)</p>
9:00		403	<p>市販乳酸菌添加による粳米サイレージの開封後の好気的変敗抑制効果</p> <p>○浅井英樹・岩島玲奈・臼井秀義・坂口慎一(岐阜県畜産研究所)</p>	9:00		S03	<p>草地・飼料作における韓国との交流事始め</p> <p>○清水 矩宏(ハヶ岳中央農業実践大学校)</p>
9:15	川出哲生	404	<p>フレコンラップ法を用いたSGS調製体系の実証(1)粳米</p> <p>○魚住 順・嶋野英子・河本英憲(農研機構 東北農業研究センター)</p>	9:15	休憩		
9:30		405	<p>フレコンラップ法を用いたSGS調製体系の実証(2)トウモロコシ</p> <p>○嶋野英子・魚住 順・河本英憲(農研機構 東北農業研究センター)</p>	9:30	S04	<p>aNDFom, ADFomおよび ADL連続分析の有用性</p> <p>○甘利雅菰・田島清・大森英之(農研機構畜産部門・農水省林産技術会議)</p>	
9:45		406	<p>フレコンラップ法を用いたトウモロコシ実サイレージの長期保存品質</p> <p>○嶋野英子・魚住 順・河本英憲・出口 新・内野 宙(農研機構 東北農業研究センター)</p>	9:45	S05	<p>牛飼現場の話ー男のロマンは女の不満</p> <p>○梨木 守(一般社団法人 日本草地畜産種子協会)</p>	
10:00		休憩		10:00	市戸万丈	S06	<p>ヤギ 搾乳経営の経済性検討</p> <p>○今井 明夫(今井農業技術士事務所)</p>
10:15	須永義人	7. 土壌・肥料		10:15		S07	<p>本当の環境保全型・循環型・持続可能型農業とはーとくに農地土壌の元素の出納についてー</p> <p>○千秋 達道(元北里大学獣医畜産学部)</p>
10:30		701	<p>国内の草地飼料畑の管理実態</p> <p>○森 昭憲<sup>1</sup>・宮田 明<sup>2</sup>・寶示戸雅之<sup>3</sup>・築城幹典<sup>4</sup>・松本武彦<sup>5</sup>・有田敬俊<sup>6</sup>・清水真理子<sup>7</sup>・松浦庄司<sup>2</sup>・長竹 新<sup>8</sup>・道信有真<sup>9</sup>・波多野隆介<sup>8</sup>(<sup>1</sup>農研機構畜産部門・<sup>2</sup>農研機構農環研・<sup>3</sup>北里大学・<sup>4</sup>岩手大学・<sup>5</sup>道総研根釧農試・<sup>6</sup>道総研上川農試・<sup>7</sup>寒地土木研・<sup>8</sup>北海道大学)</p>	10:30			
10:45		702	<p>窒素・カリ施肥がチモシーの飼料成分と糖含量に及ぼす影響</p> <p>○岡元英樹<sup>1,2</sup>・笹木正志<sup>1</sup>・松原哲也<sup>1</sup>・増子孝義<sup>3</sup>・大橋優二<sup>1,4</sup>(<sup>1</sup>道総研天北支場・<sup>2</sup>現:道総研上川農試・<sup>3</sup>東京農業大学・<sup>4</sup>現:道総研中央農試)</p>	10:45			

口頭発表プログラム 3月21日				口頭発表プログラム 3月21日			
A会場 (総合教育棟3F306教室)				B会場 (総合教育棟3F305教室)			
時間	座長	2. 造成・管理・栽培		時間	座長	3. 放牧・家畜管理・行動	
13:00	森田聡一郎	210	神奈川県におけるトウモロコシ二期作の作業分散方法の検討 ○折原健太郎・秋山 清・辻 浩之・森村裕之・齋藤直美 (神奈川県畜産技術センター)	13:00	手島茂樹	304	ケンタッキーブルーグラス基幹放牧草地における省力管理条件下の牧草及び家畜生産性 - 16年間の継続調査 ○八木隆徳・高橋 俊 (農研機構・北海道農業研究センター)
13:15		211	子実生産に適したトウモロコシの品種特性 ○内野 宙・魚住 順・嶮野英子・河本英憲・出口 新 (農研機構 東北農研)	13:15		305	トウモロコシ子実主体サイレージ (HMSC・CCM) の放牧搾乳牛への給与効果と産乳性 ○須藤賢司・上田靖子・朝隈貞樹・青木康浩・多田慎吾 (農研機構 北海道農業研究センター)
13:30		212	暖地における飼料用トウモロコシの高位栄養収量性品種 ○森 徹 (宮崎県畜試)	13:30	黒川勇三	306	春季の放牧泌乳牛へのビートパルプ補給が食草量および乳生産に及ぼす影響 ○上田宏一郎 <sup>1</sup> ・甲田捺都美 <sup>1</sup> ・窪田朋代 <sup>1</sup> ・三谷朋弘 <sup>2</sup> ( <sup>1</sup> 北大院農、 <sup>2</sup> 北大FSC)
13:45	根本英子	213	国産汎用コンバインによる子実トウモロコシ収穫に適した品種選定のポイント ○浅井貴之・三木一嘉 (長野県畜産試験場)	13:45		307	放棄地での経年的なヤギ放牧が植生および栄養状態に及ぼす影響 ○土井和也 <sup>1</sup> ・田宮早恵 <sup>2</sup> ・中嶋紀寛 <sup>1</sup> ・八代田真人 <sup>3</sup> ( <sup>1</sup> 岐阜大・院・連農、 <sup>2</sup> 岐阜大・院・応生、 <sup>3</sup> 岐阜大・院・応生)
14:00		214	庄内地域における子実利用を目的としたトウモロコシの生産技術の検討 ○室井智陽・松山裕城・堀口健一・中坪あゆみ・浦川修司 (山形大学農学部)	14:00			
14:15	平野清	215	Grazing potential of foggage dwarf napiergrass pasture in southern Kyushu (南九州の霜枯れ矮性ネピアグラス草地における放牧可能性の検討) ○Hamid Kadwal <sup>1</sup> ・Yasuyuki Ishii <sup>2</sup> ・Ayaka Goto <sup>2</sup> ・Li Bo Kun <sup>3</sup> ・Sachiko Idota <sup>2</sup> ・Kiichi Fukuyama <sup>2</sup> ( <sup>1</sup> Interdisciplinary Graduate School of Agriculture and Engineering, University of Miyazaki (UM), <sup>2</sup> Faculty of Agriculture, UM・ <sup>3</sup> Graduate School of Agriculture, UM)	14:15			
14:30		216	Yields from year-round triple cropping with a four-harvest system consisting of spring maize (春作トウモロコシ, ミレット類および耐暑性イタリアンライグラスによる年間3作4回収穫体系における収量性) ○Li Bo Kun <sup>1</sup> ・Yasuyuki Ishii <sup>2</sup> ・Yang Yingkui <sup>3</sup> ・Hirokazu Shinchi <sup>2</sup> ・Mitsuhiro Niimi <sup>2</sup> ・Sachiko Idota <sup>2</sup> ・Shegeki Nukudani <sup>4</sup> ・Keiko Nishimura <sup>4</sup> ( <sup>1</sup> Graduate School of Agriculture・University of Miyazaki (UM)・ <sup>2</sup> Faculty of Agriculture, UM・ <sup>3</sup> Interdisciplinary Graduate School of Agriculture and Engineering, UM・ <sup>4</sup> Miyazaki Livestock Experimental Station)	14:30			
14:45				14:45			

口頭発表は講演時間12分、質疑応答3分（一鈴：10分、二鈴：12分、三鈴：14分30秒）です。時間厳守。また、プロジェクトが不調の場合には、講演要旨を用いて発表してください。

口頭発表プログラム 3月21日				口頭発表プログラム 3月21日			
C会場 (総合教育棟3F309教室)				D会場 (総合教育棟3F310教室)			
時間	座長	4. 飼料調製加工・貯蔵・利用		時間	座長	6. 育種	
13:00	喜田環樹	407	オーチャードグラスのラップサイロ表層における電磁波伝送特性と含水率との関係 ○松尾守展 <sup>1</sup> ・長田 享 <sup>1</sup> ・滝元弘樹 <sup>1</sup> ・昆盛太郎 <sup>2</sup> (農研機構・革新工学センター・ <sup>2</sup> 産総研・物理計測標準研究部門)	13:00	佐藤広子	601	準高冷地におけるライムギの交雑集団(F1世代)における特性評価 ○春日重光 <sup>1</sup> ・西 智美 <sup>1</sup> ・古畑賢人 <sup>1</sup> ・村田有香 <sup>1</sup> ・小山内光輔 <sup>2</sup> ・関根 平 <sup>2</sup> ・野宮柱 <sup>2</sup> (信州大学農学部附属アルプス圏フィールド科学教育研究センター・ <sup>2</sup> 雪印種苗株式会社 千葉研究農場)
13:15		408	静電容量式水分測定器を用いた牧草含水率測定手法の開発 ○川出哲生 (農研機構 畜産研究部門)	13:15		602	トウモロコシ親系統の採種性向上のための補植技術の検討 ○川口 優・土方浩嗣 (家畜改良センター茨城牧場長野支場)
13:30		409	矮性ネピアグラスにおける予乾処理がロールペールサイレージの発酵品質、選好性および越冬性に及ぼす影響 ○深川 聡 <sup>1</sup> ・二宮京平・石井康之 <sup>2</sup> (長崎農技セ・ <sup>2</sup> 宮崎大農)	13:30		603	共生糸状菌 <i>Epichloë occultans</i> のイタリアンライグラス種内での分布特性を利用した高感染率種子採種の試み ○清 多佳子 <sup>1</sup> ・吉田信代 <sup>1</sup> ・菅原幸哉 <sup>1</sup> ・森本信生 <sup>1</sup> ・荒川 明 <sup>2</sup> ・内山和宏 <sup>1</sup> ・上山泰史 <sup>1</sup> (農研機構・畜産研究部門・ <sup>2</sup> 農研機構・九州沖縄農業研究センター)
13:45	河本英憲	410	調製直後のサイレージから放散されるガス状物質の測定方法に関する検討 ○池田四郎 <sup>1</sup> ・折原健太郎 <sup>2</sup> ・永井大悟 <sup>1</sup> ・海福雄一郎 <sup>1</sup> ・西館邦瑛 <sup>1</sup> (株式会社ガステック・ <sup>2</sup> 神奈川県畜産技術センター)	13:45	久保田明人	604	ソルガムのF1採種における高品質種子生産 ○清沢敦志・水流正裕・三木一嘉・後藤和美 (長野県畜産試験場)
14:00		411	TMRセンターを基軸とした国産飼料流通における技術的課題調査 ○滝元弘樹・志藤博克 (農研機構 革新工学センター)	14:00		605	西洋ミヤコグサスーパールートを用いたFOXハンティングシステムによるバイオマス関連遺伝子の探索と機能解析 ○権藤崇裕 <sup>1</sup> ・永野 優 <sup>2</sup> ・末吉佳那子 <sup>2</sup> ・明石 良 <sup>2</sup> (宮大フロンティア・ <sup>2</sup> 宮大農学部)
14:15				14:15		501	5. 生理・形態・病理・昆虫 酵素処理を活用したグラスエンドファイト検出の省力化の試み ○菅原幸哉・清 多佳子・吉田信代・森本信生・小坂橋基夫 (農研機構 畜産研究部門)
14:30				14:30			
14:45				14:45			



口頭発表プログラム 3月22日				口頭発表プログラム 3月22日			
A会場 (総合教育棟3F306教室)				B会場 (総合教育棟3F305教室)			
時間	座長	2. 造成・管理・栽培		時間	座長	3. 放牧・家畜管理・行動	
13:00	深川 聡	217	宮崎県におけるソルガム新品種ターザンの成育特性 ○井戸田幸子 <sup>1</sup> ・飛佐 学 <sup>1</sup> ・石井康之 <sup>1</sup> ・西村慶子 <sup>2</sup> ・温谷茂樹 <sup>2</sup> (1宮崎大学農学部・2宮崎県畜産試験場)	13:00	北川美弥	308	小規模・集約的な放牧システムにおける放牧牛の行動と草地利用(1): 休息場へのアクセスルートが限られた草地における結果 ○柴田千紘・平田昌彦 (宮崎大農学部)
13:15		218	暖地型イネ科牧草ブラキアリアグラス草種の踏圧耐性の基礎研究 ○石垣元気・Pattama Nitthaisong・福山喜一・明石 良 (宮崎大学農学部)	13:15		309	小規模・集約的な放牧システムにおける放牧牛の行動と草地利用(2): 構造および畜舎との位置関係が異なる2つの草地の比較 ○柴田千紘・平田昌彦 (宮崎大農学部)
13:30		219	熱水処理がワルナスビ根片の生存に及ぼす影響 ○太田耶子・佐藤克昭・鈴木 巧・高野浩 (静岡県畜産技術研究所)	13:30		310	放牧牛群内の若齢個体における採食時の敵対行動(1): 頻度と種類 ○大重友季・平田昌彦 (宮崎大農学部)
13:45	松本武彦	220	北海道の草地で問題となっているハルガヤの特性 陳綱汶 <sup>1,4</sup> ・小池真太郎 <sup>2</sup> ・大塚博志 <sup>3</sup> ・平田聡之 <sup>1,4</sup> ・○山田敏彦 <sup>1,4*</sup> (1北海道大学大学院環境科学院・2北海道大学農学部・3ホクレン農業協同組合・4北海道大学北方生物圏フィールド科学センター)	13:45	渡辺也恭	311	放牧牛群内の若齢個体における採食時の敵対行動(2): 採食中断時間 ○大重友季・平田昌彦 (宮崎大農学部)
14:00		221	オーチャードグラス「えさじまん」とペレニアルライグラスの混播栽培 1. 採草放牧兼用における利用1年目の生育特性 ○真田康治・田村健一・秋山征夫 (農研機構 北農研)	14:00		312	ウシにおける視覚による植生識別能力の評価: 緑草と枯死草の識別(1) ○有本千恵・村上佳耶奈・平田昌彦 (宮崎大農学部)
14:15	八木隆徳	222	チモシー早生新品種「なつちから」導入草地の植生変動と数種イネ科草種のストレス耐性からみた考察 ○藤井弘毅 <sup>1</sup> ・大塚博志 <sup>2</sup> ・豊岡誠嗣 <sup>2</sup> ・有江裕志 <sup>2</sup> ・安達美江子 <sup>2</sup> ・桑島啓輔 <sup>2</sup> ・太田裕規 <sup>2</sup> ・太田昌利 <sup>3</sup> ・西村健太郎 <sup>3</sup> ・足利和紀 <sup>1</sup> ・田中常喜 <sup>1</sup> (1道総研北見農試・2ホクレン農業協同組合連合会・3訓子府町役場)	14:15	池田堅太郎	313	ウシにおける視覚による植生識別能力の評価: 緑草と枯死草の識別(2) ○有本千恵・村上佳耶奈・平田昌彦 (宮崎大農学部)
14:30		223	作溝法による簡易更新時におけるチモシー播種量削減の可能性 ○松本武彦・八木哲生・酒井 治 (道総研根釧農試)	14:30			
14:45				14:45			

口頭発表は講演時間12分、質疑応答3分（一鈴：10分、二鈴：12分、三鈴：14分30秒）です。時間厳守。また、プロジェクトが不調の場合には、講演要旨を用いて発表してください。

口頭発表プログラム 3月22日				口頭発表プログラム 3月22日			
C会場 (総合教育棟3F309教室)				D会場 (総合教育棟3F310教室)			
時間	座長	4. 飼料調製加工・貯蔵・利用		時間	座長	優秀若手発表賞	
13:00	小橋有里	412	新規サイレージ添加用乳酸菌IWT192株(番草2号株)の分離とその特徴評価 ○遠野雅徳 <sup>1</sup> ・河野幸雄 <sup>2</sup> ・福馬敬敏 <sup>2</sup> ・本間満 <sup>3</sup> ・谷沢靖洋 <sup>4</sup> ・有田正規 <sup>4</sup> ・北村亨 <sup>3</sup> ・野中和久 <sup>1</sup> ( <sup>1</sup> 農研機構畜産研究部門・ <sup>2</sup> 広島県立総合技術研究所畜産技術センター・ <sup>3</sup> 雪印種苗株式会社・ <sup>4</sup> 国立遺伝学研究所)	13:00	川村健介	Y01	温暖化が寒地型牧草生産におよぼす影響のモデルによる評価 ○樽見恵梨奈 <sup>1</sup> ・阿部竹典 <sup>2</sup> ・築城幹典 <sup>2</sup> ・森 昭憲 <sup>3</sup> ( <sup>1</sup> 岩手大院連農・ <sup>2</sup> 岩手大農・ <sup>3</sup> 農研機構畜産研究部門)
13:15		413	Effect of silage additives on fermentation quality and nutritive value of total mixed ration (TMR) silage made from agricultural by-products ○Yuli Yanti <sup>1, 2</sup> ・Masato Yayota <sup>3</sup> ( <sup>1</sup> Department of Animal Science, Universitas Sebelas Maret, <sup>2</sup> The United Graduate School of Agricultural Science, Gifu University, <sup>3</sup> Faculty of Applied Biological Sciences, Gifu University)	13:15		Y02	The heterogeneity of nitrification in the grazed pasture and its interaction to the soil microbial community ○茂木宏仁・内田義崇(北海道大学農学院)
13:30		414	規格外バレイショサイレージの発酵品質 ○小野恵美・松山裕城・浦川修司・中坪あゆみ・堀口健一(山形大農学部)	13:30		Y03	中国内モンゴ草原における2年間のリン酸窒素混合施肥が地上部生産量および土壌酵素活性に及ぼす影響 ○飯泉結季 <sup>1</sup> ・金海 <sup>2</sup> ・王海鳴 <sup>3</sup> ・アラ塔 <sup>3</sup> ・田島淳史 <sup>1</sup> ・浅野敦之 <sup>1</sup> ・石川尚人 <sup>1</sup> ( <sup>1</sup> 筑波大学 生命環境科学研究科・ <sup>2</sup> 内蒙古自治区農牧業科学院畜牧研究所・ <sup>3</sup> 内蒙古農牧業科学院草原研究所)
13:45	嶮野英子	415	黒毛和種繁殖牛向け混合サイレージの水分含有率の違いが発酵品質に及ぼす影響 ○中武 真・西村慶子・温谷茂樹(宮崎県畜産試験場)	13:45	休憩		
14:00		416	木綿ネットのルーメン内における消失率 ○小橋有里 <sup>1</sup> ・関 誠 <sup>1, 3</sup> ・岡嶋 弘 <sup>2</sup> ( <sup>1</sup> 新潟県農業総合研究所畜産研究センター・ <sup>2</sup> (株)タカキタ・ <sup>3</sup> 現:新潟県農業総合研究所)	14:00	榎村恭子	Y04	ウェアラブルカメラを用いた放牧牛の摂食行動モニタリング:多様な植生下での摂食植物種の推定 ○二階莉紗 <sup>1</sup> ・八代田真人 <sup>2</sup> ・畠山紀智 <sup>1</sup> ・穴戸哲郎 <sup>1</sup> ・小倉振一郎 <sup>1</sup> ( <sup>1</sup> 東北大学大学院農学研究科・ <sup>2</sup> 岐阜大学応用生物科学部)
14:15		417	スタックサイロ用長重石による作業性およびサイレージ品質に及ぼす影響 ○大越安吾(道総研根釧農業試験場)	14:15		Y05	放牧地の植生の違いが放牧ヤギの反芻胃内消化に及ぼす影響 ○田宮早恵 <sup>1</sup> ・土井和也 <sup>2</sup> ・中嶋紀寛 <sup>2</sup> ・小倉振一郎 <sup>2</sup> ・八代田真人 <sup>1</sup> ( <sup>1</sup> 岐阜大・応生・ <sup>2</sup> 岐阜大・院・連農・ <sup>3</sup> 東北大・院・農)
14:30				14:30	松山裕城	Y06	輸入飼料から自給飼料への転換: Life Cycle Assessmentを用いた酪農システムの評価 ○箕浦睦也 <sup>1</sup> ・八代田真人 <sup>2</sup> ( <sup>1</sup> 岐阜大学大学院応用生物科学研究科・ <sup>2</sup> 岐阜大学応用生物科学部)
14:45				14:45		Y07	飼料用米の玄米乾燥体系が乾燥効率, 製品率, 飼料成分に及ぼす影響 ○川原田直也(三重県農業研究所)

ポスター発表 (大学会館3F大集会室)	
奇数番号コアタイム: 3月21日 11:00~12:00 偶数番号コアタイム: 3月22日 8:30~9:30	
1. 草地生態・システム分析・緑地環境	
P01	春播き寒地型牧草の被度に及ぼす草品種と刈取り回数の影響 ○東山雅一、魚住順、内野宙、出口新、嶺野英子 (農研機構 東北農研)
P02	秋播き寒地型牧草の被度に及ぼす草品種の影響 ○東山雅一、魚住順、内野宙、出口新、嶺野英子 (農研機構 東北業農研)
P03	中国内蒙古自治区新バグ右旗の退化草原における窒素およびリン酸添加による草原修復処理の影響評価 ○川田清和 <sup>1</sup> ・元金東 <sup>1</sup> ・上條隆志 <sup>1</sup> ・烏云娜 <sup>2</sup> ( <sup>1</sup> 筑波大学・ <sup>2</sup> 大連民族大学)
P04	寒地型牧草の肥料木・庇陰樹としてのネムノキの特性評価. 稚樹植栽4年後のオーチャドグラス無施肥草地の生産力 ○福田栄紀 (農研機構 東北農研)
P05	ドローン空撮画像を用いた放牧地の植被と植生指数の季節変化 ○川村健介 <sup>1</sup> ・小倉振一郎 <sup>2</sup> ・八代田真人 <sup>3</sup> ・Lim Jihyun <sup>4</sup> ・安田泰輔 <sup>5</sup> ・黒川勇三 <sup>6</sup> ・小櫃剛人 <sup>6</sup> ( <sup>1</sup> 国際農林水産業研究センター・ <sup>2</sup> 東北大学大学院農学研究科・ <sup>3</sup> 岐阜大学応用生物科学部・ <sup>4</sup> 広島大学キャリアデザインセンター・ <sup>5</sup> 山梨県富士山科学研究所・ <sup>6</sup> 広島大学大学院生物圏科学研究科)
P06	府県型放牧酪農の推進に向けた物質動態モデル - 基本構造の構築 - 明珍 学・○板野志郎・吉成悠佑・田中繁史・吉田智佳子 (新潟大農学部)
P07	3軸加速度センサーを利用した放牧期間中の羊の行動計測と採食強度の解析 吉成悠佑 <sup>1</sup> ・○板野志郎 <sup>1</sup> ・明珍 学 <sup>1</sup> ・渡辺也恭 <sup>2</sup> ・川村健介 <sup>3</sup> ( <sup>1</sup> 新潟大学・ <sup>2</sup> 北海道農業研究センター・ <sup>3</sup> 国際農林水産業研究センター)
P08	営巣地におけるチベットギツネの柔軟な日周活動性 ○塚田英晴 <sup>1</sup> ・郭 志宏 <sup>2</sup> ・李 偉 <sup>2</sup> ・朵 红 <sup>2</sup> ・付 永 <sup>2</sup> ・彭 毛 <sup>2</sup> ・沈 秀英 <sup>2</sup> ・尼 瑪 <sup>3</sup> ・野中成晃 <sup>4</sup> ( <sup>1</sup> 麻布大学・ <sup>2</sup> 青海大学・ <sup>3</sup> 海宴県獣医局・ <sup>4</sup> 宮崎大学)
P09	絶滅危惧種オキナグサの発芽に要する積算温量 ○坂上清一 <sup>1</sup> ・下田勝久 <sup>2</sup> ( <sup>1</sup> 農研機構北農研・ <sup>2</sup> 農研機構畜産研究部門)
2. 造成・管理・栽培	
P10	中国地方におけるディジットグラスの収量性に及ぼす刈取の高さおよび間隔の影響 ○大谷一郎・堤 道生・寺井恵子 (農研機構 西日本農研)
P11	UAV空撮画像と機械学習を用いた採草地内の雑草の検出: 撮影時期および撮影高度の影響の予備調査 ○中神弘詞 <sup>1</sup> ・赤坂邦弥 <sup>2</sup> ・前田育男 <sup>2</sup> ・長谷部浩行 <sup>2</sup> ・渡邊 修 <sup>3</sup> ( <sup>1</sup> 農研機構畜産研究部門・ <sup>2</sup> 家畜改良センター・ <sup>3</sup> 信州大学農学部)
P12	RCP4.5シナリオのもとでの飼料用トウモロコシ (Zea mays L.) 二期作適地の変化予測 ○菅野 勉 <sup>1</sup> ・森田聡一郎 <sup>1</sup> ・佐々木寛幸 <sup>1</sup> ・加藤直樹 <sup>2</sup> ・西村和志 <sup>3</sup> ・西森基貴 <sup>4</sup> ( <sup>1</sup> 農研機構畜産研究部門・ <sup>2</sup> 農研機構九州沖縄農研・ <sup>3</sup> 農研機構中央農研・ <sup>4</sup> 農研機構農環研)
P13	夏季の北海道におけるミツバチ農薬被害回避に向けた蜜源作物の選定 ○小路 敦・坂上清一 (農研機構 北農研)
ポスター発表者は指定されたコアタイムにポスターの前で待機し、説明してください。 ポスターは3月22日の12:30から13:00の間に撤去してください。13:00以降に掲示されているポスターは大会事務局で処分します。	

ポスター発表 (大学会館3F大集会室)

奇数番号コアタイム: 3月21日 11:00~12:00

偶数番号コアタイム: 3月22日 8:30~9:30

2. 造成・管理・栽培

P14	岩手県での子実用トウモロコシの収量性 ○出口 新・内野 宙・魚住 順・嶺野英子・河本英憲 (農研機構 東北農研)
P15	ハルガヤ ( <i>Anthoxanthum odoratum</i> ) の生態的および栄養的特性 ○渡部 敢・飯田憲司 (道総研畜産試験場)
P16	土壌水分条件が異なる圃場での飼料作物の収量の比較 ○北川まき <sup>1</sup> ・大川夏貴 <sup>1</sup> ・鶴田 勉 <sup>1</sup> ・服部育男 <sup>2</sup> ・加藤直樹 <sup>2</sup> ( <sup>1</sup> 熊本県農業研究センター畜産研究所・ <sup>2</sup> 農研機構九農研)
P17	根釧地域における飼料用ライ麦秋播き栽培の生育特性 ○角谷芳樹 <sup>1</sup> ・林 拓 <sup>2</sup> ・牧野 司 <sup>1</sup> ・中村直樹 <sup>1</sup> ・松本武彦 <sup>1</sup> ( <sup>1</sup> 道総研根釧農業試験場・ <sup>2</sup> 道総研上川農試天北支場)
P18	関東北部におけるトウモロコシ子実生産のための条件検討 ○森田聡一郎・菅野 勉 (農研機構 畜産研究部門)
P19	播種方式がファジービーン <sup>1</sup> の生育および収量に及ぼす影響 ○飛佐 学・井戸田幸子・石井康之 (宮崎大農学部)
P20	栽植密度がファジービーン <sup>1</sup> の種子生産に及ぼす影響 ○飛佐 学 <sup>1</sup> ・黒木皓斗 <sup>1</sup> ・井戸田幸子 <sup>1</sup> ・石井康之 <sup>1</sup> ・西村慶子 <sup>2</sup> ・温谷茂樹 <sup>2</sup> ( <sup>1</sup> 宮崎大学農学部・ <sup>2</sup> 宮崎県畜産試験場)
P21	北海道東部の放牧地におけるペレニアルライグラスの冠部被度の推移 ○佐々木 亨 <sup>1</sup> ・平田 愛 <sup>1</sup> ・菊池慎二 <sup>1</sup> ・杉田紳一 <sup>2</sup> ( <sup>1</sup> 日草種協 北海道支所・ <sup>2</sup> 日草種協 飼作研)
P22	北海道の道央地域におけるトウモロコシ子実の収量性と水分含量 ○佐藤 尚・黄川田智洋 (農研機構 北農研)
P23	マサ土におけるバヒアグラスの生育を堆肥施用が改善する (予報) ○堤 道生・大谷一郎 (農研機構 西日本農研)
P24	Alfalfa ( <i>Medicago sativa</i> L.) production and establishment in Minqin Oasis ○Hideki Okamoto <sup>1</sup> ・Cuihua Huang <sup>2</sup> ・Xian Xue <sup>2</sup> ・Jin-Lin Zhang <sup>3</sup> ・Luo Jun <sup>2</sup> ・Xin-Pei Lu <sup>3</sup> ・Jun-ichi Kashiwagi <sup>4</sup> ・and Ping An <sup>5</sup> ( <sup>1</sup> Kamikawa Agricultural Experiment Station, HRO・ <sup>2</sup> Northwest Institute of Eco-Environment and Resource, CAS・ <sup>3</sup> College of Pastoral Agriculture Science and Technology, Lanzhou University・ <sup>4</sup> Hokkaido University・ <sup>5</sup> ALRC, Tottori University)
P25	本邦亜熱帯地域におけるソルゴー型ソルガムの生育と再生 ○今井裕理子 <sup>1</sup> ・赤嶺 光 <sup>2</sup> ・Win Mi Htwe <sup>2</sup> ・川本康博 <sup>2</sup> ( <sup>1</sup> ヤンマー (株)・ <sup>2</sup> 琉球大農学部)
P26	Effects of EDTA on dry matter and lead uptake in <i>Brachiaria decumbens</i> and <i>Paspalum atratum</i> from lead contaminated acidic soil ○Win Mi Htwe <sup>1</sup> ・Yasuhiro Kawamoto <sup>2</sup> ( <sup>1</sup> The United Graduate School of Agricultural Sciences, Kagoshima University・ <sup>2</sup> Faculty of Agriculture, University of the Ryukyus)

ポスター発表者は指定されたコアタイムにポスターの前で待機し、説明してください。  
ポスターは3月22日の12:30から13:00の間に撤去してください。13:00以降に掲示されている  
ポスターは大会事務局で処分します。

ポスター発表 (大学会館3F大集会室)	
奇数番号コアタイム：3月21日 11:00~12:00 偶数番号コアタイム：3月22日 8:30~9:30	
2. 造成・管理・栽培	
P27	オーチャードグラスとペレニアルライグラスの放射性セシウム濃度の草種間差 ○ 榎村恭子・大槻和夫・早坂貴代史・渋谷 岳・山田大吾 (農研機構 畜産研究部門)
P28	未除染畦畔・法面で野草の飼料を刈払機と熊手で集草すると土壌混入により放射性セシウム濃度が高まる ○ 好野奈美子 <sup>1</sup> ・浅井元朗 <sup>1</sup> ・榎村恭子 <sup>2</sup> ・須永義人 <sup>2</sup> ・木幡和宏 <sup>3</sup> ( <sup>1</sup> 農研機構東北農研・ <sup>2</sup> 農研機構畜産研究部門・ <sup>3</sup> 福島県農業総合センター畜産研究所)
P29	福島県の営農再開酪農場における飼料作物生産技術実証―牧草中の放射性セシウム濃度とカリウム濃度の推移― ○ 天羽弘一・住田憲俊・小島陽一郎 (農研機構 畜産研究部門)
P30	福島復興牧場への飼料用トウモロコシ生産技術移転と規模拡大 ○ 住田憲俊・天羽弘一 (農研機構 畜産研究部門)
3. 放牧・家畜管理・行動	
P31	被食量推定式の基礎をなす仮定の比較解析 ○ 坂上清一 (農研機構 北農研)
P32	摂取植物種の多様性がウシのルーメン消化に及ぼす影響 ○ 高見澤真太 <sup>1</sup> ・中野美和 <sup>2</sup> ・宍戸哲郎 <sup>1</sup> ・小倉振一郎 <sup>1*</sup> ( <sup>1</sup> 東北大学大学院農学研究科・ <sup>2</sup> 農研機構畜産研究部門)
P33	行動・生産・環境指標を用いた採卵鶏輪換放牧の動物福祉効果の解明 ○ 小玉祐二・板野志郎*・杉山稔恵・吉成悠佑・明珍 学・町田麻菜美・遠山 鍊・遠藤理弘・西川洸史 (新潟大農学部)
P34	教師なし学習を利用した牛の採食行動の識別 ○ 渡辺也恭・坂上清一 (農研機構 北農研)
P35	耕作放棄地におけるヤギの除草面積の推定 ○ 柿 真理 <sup>1</sup> ・加藤元海 <sup>2</sup> ( <sup>1</sup> 高知大・院・理・ <sup>2</sup> 高知大・黒潮圏)
P36	シバ糞上移植における牛糞の違いがシバの生育に及ぼす影響 ○ 中西良孝 <sup>1</sup> ・後藤孝美 <sup>2</sup> ・松元里志 <sup>1</sup> ・片平清美 <sup>1</sup> ・大島一郎 <sup>1</sup> ・高山耕二 <sup>1</sup> ( <sup>1</sup> 鹿児島大農学部・ <sup>2</sup> 熊本県立矢部高等学校)
P37	ソルゴー型ソルガムを利用した冬季放牧の検討 3. 夏季と冬季の2回利用の検討 ○ 手島茂樹・進藤和政 (農研機構 畜産研究部門)
P38	手摘み法による放牧牛のバイトサイズ推定：山地放牧地における植物種、高さ、季節によるバイトサイズの比較 畠山紀智・○小倉振一郎*・二階莉紗・宍戸哲郎 (東北大学大学院農学研究科)
P39	モザンビーク国ガザ州の農家における家畜・家禽生産と飼養管理 ○ 山崎正史 <sup>1</sup> ・Damiao W. Ngulve <sup>2</sup> ・Benedito I. Tinga <sup>2</sup> ・安藤 貞 <sup>1</sup> ( <sup>1</sup> 国際農研・ <sup>2</sup> モザンビーク国立農業研)
P40	野生鳥獣のジビエ活用：イノシシ及びニホンジカの機能性アミノ酸 ○ 時田昇臣・大橋りか・長谷川愛 (日本獣医生命科学大)
ポスター発表者は指定されたコアタイムにポスターの前で待機し、説明してください。 ポスターは3月22日の12:30から13:00の間に撤去してください。13:00以降に掲示されているポスターは大会事務局で処分します。	

ポスター発表 (大学会館3F大集会室)	
奇数番号コアタイム: 3月21日 11:00~12:00	
偶数番号コアタイム: 3月22日 8:30~9:30	
4. 飼料調製加工・貯蔵・利用	
P41	イネWCS等の生産履歴管理システムの構築 3) コントラクター向け機能拡張 ○喜田環樹 <sup>1</sup> ・川出哲生 <sup>1</sup> ・西村和志 <sup>2</sup> ( <sup>1</sup> 農研機構畜産研究部門・ <sup>2</sup> 農研機構中央農研)
P42	稲WCS多給条件の黒毛和種繁殖牛における飼料費の低減 (予報) ○河本英憲・米内美晴 (農研機構 東北農研)
P43	コーンコブミックスおよびハイモイスターシェルドコーンの給与が泌乳牛における飼養成績、消化性および窒素出納に及ぼす影響 ○多田慎吾・青木康浩・上田靖子・田鎖直澄・伊藤文彰・山崎武志 (農研機構 北農研)
P44	モウソウテクと酒粕との混合サイレージ調製と発酵適性 菊川裕幸 <sup>1</sup> ・○蔡 義民 <sup>2</sup> ( <sup>1</sup> 兵庫県立篠山東雲高等学校・ <sup>2</sup> 農研機構畜産研究部門)
P45	茎ワカメと稲わらを利用したサイレージの品質評価 ○大竹秀男 <sup>1</sup> ・高橋由衣 <sup>1</sup> ・田川伸一 <sup>2</sup> ・金藤克也 <sup>3</sup> ( <sup>1</sup> 宮城大学食産業学部・ <sup>2</sup> 清水港飼料(株)・ <sup>3</sup> さとうみファーム)
P46	Effect of Chemical Conditioning on the Drying Rate and Quality of Rye ( <i>Secale cereale</i> L.) Hay Y. W. Li <sup>1</sup> , S. I. Jeong <sup>2</sup> , H. J. Kim <sup>2</sup> , S. G. Choi <sup>2</sup> and J. G. Kim <sup>1,2</sup> , ( <sup>1</sup> Graduate School of International Agricultural Technology, Seoul National University・ <sup>2</sup> Research Institute of Eco-friendly Livestock science, INSTITUTE of GreenBio Science Technology, Seoul National University)
P47	Study on the Productivity and Quality Component in Whole Crop Rice Varieties in Korea ○ J. G. Kim <sup>1, 2*</sup> , Y. W. Li <sup>1</sup> , S. I. Jeong <sup>1</sup> , H. J. Kim <sup>1</sup> , S. K. Choi <sup>1</sup> , E. G. Ahn <sup>3</sup> ( <sup>1</sup> Graduate School of International Agricultural Technology, Seoul National University・ <sup>2</sup> Research Institute of Eco-friendly Livestock science, INSTITUTE of GreenBio Science Technology, Seoul National University・ <sup>3</sup> National Institute of Crop Science, RDA)
P48	粳米サイレージ調製における乳酸菌資材の添加効果 小橋有里 <sup>1</sup> ・○関 誠 <sup>1,3</sup> ・北村 亨 <sup>2</sup> (新潟県農業総合研究所畜産研究センター・ <sup>2</sup> 雪印種苗(株)・ <sup>3</sup> 現:新潟県農業総合研究所)
P49	寒地型牧草類における乾物率の違いがサイレージpHと発酵品質の関わりに及ぼす影響 ○服部育男・加藤直樹・金子真 (農研機構 九州農研)
P50	パウチサイロを用いたサイレージの発酵品質に影響を及ぼす因子の推定 ○中川 脩 <sup>1</sup> ・池田四郎 <sup>1</sup> ・海福雄一郎 <sup>1</sup> ・折原健太郎 <sup>2</sup> ( <sup>1</sup> 株式会社ガステック・ <sup>2</sup> 神奈川県畜産技術センター)
P51	パッシブインジケータ法を用いた調製直後のサイレージから放散される酸性および塩基性ガスのスクリーニング ○池田四郎 <sup>1</sup> ・折原健太郎 <sup>2</sup> ・中川 脩 <sup>1</sup> ・海福雄一郎 <sup>1</sup> ( <sup>1</sup> 株式会社ガステック・ <sup>2</sup> 神奈川県畜産技術センター)
P52	トウモロコシ子実主体サイレージの添加剤によるカビ抑制効果 ○根本英子・大下友子・青木康浩 (農研機構 北農研)
ポスター発表者は指定されたコアタイムにポスターの前で待機し、説明してください。 ポスターは3月22日の12:30から13:00の間に撤去してください。13:00以降に掲示されているポスターは大会事務局で処分します。	

ポスター発表 (大学会館3F大集会室)	
奇数番号コアタイム：3月21日 11:00~12:00 偶数番号コアタイム：3月22日 8:30~9:30	
4. 飼料調製加工・貯蔵・利用	
P53	果物加工残渣が反芻動物第一胃発酵および微生物挙動に及ぼす影響 ○上野 豊・春日重光 (信州大学術研究院[農学系])
P54	乾燥および破碎処理を行わない籾米の飼料向け貯蔵技術の検討 ○井上秀彦・川出哲生・遠野雅徳・小林寿美・宮地慎 (農研機構 畜産研究部門)
5. 生理・形態・病理・昆虫	
P57	虫害はトウモロコシ雌穂のフモニシン汚染リスクを増大させる要因の一つである ○岡部郁子 (農研機構 畜産研究部門)
P58	手もみ式簡易破碎容器 (フィンガーマッシャー) の使用で 少量・微細な植物種子の迅速な種皮除去 (粗すり) が可能である ○菅原幸哉 (農研機構 畜産研究部門)
6. 育種	
P59	アルファルファ新品種「ウシモスキー」のチモシー混播栽培時における適切な播種量 ○廣井清貞 <sup>1</sup> ・牧野 司 <sup>2</sup> ・安達美江子 <sup>3</sup> ・竹田芳彦 <sup>3</sup> ・奥村健治 <sup>1</sup> ・佐藤広子 <sup>1</sup> ( <sup>1</sup> 農研機構 北海道農研・ <sup>2</sup> 道総研 根釧農試・ <sup>3</sup> ホクレン)
P60	UAV (Unmanned Aerial Vehicle) と画像解析法を用いた低コスト牧草評価法の開発 ○秋山征夫 <sup>1</sup> ・福重直輝 <sup>2</sup> ・菅 正 <sup>2</sup> ・久保田明人 <sup>2</sup> ・田村健一 <sup>1</sup> ・眞田康治 <sup>1</sup> ・藤森雅博 <sup>2</sup> ( <sup>1</sup> 農研機構北農研・ <sup>2</sup> 農研機構東北農研)
P61	サイレージ用トウモロコシ新品種「だいち」の育成とその特性 ○佐藤 尚 <sup>1</sup> ・黄川田智洋 <sup>1</sup> ・伊東栄作 <sup>2</sup> ・濃沼圭一 <sup>3</sup> ( <sup>1</sup> 農研機構北農研・ <sup>2</sup> 農研機構九州研・ <sup>3</sup> 農研機構畜産部門)
P62	北海道十勝地域におけるチモシーの採種時期による特性変化 ○寺戸貴裕・長谷川 哲・塩沢道明 (家畜改良センター十勝牧場)
P63	飼料用トウモロコシF1系統群における絹糸抽出期前の耐倒伏性調査 ○三ツ橋昇平・玉置宏之 (農研機構 畜産研究部門)
P64	ペレニアルライグラス「東北7号PR」の利用2年間の越夏性と収量性 ○藤森雅博・久保田明人 (農研機構 東北農研)
ポスター発表者は指定されたコアタイムにポスターの前で待機し、説明してください。 ポスターは3月22日の12:30から13:00の間に撤去してください。13:00以降に掲示されているポスターは大会事務局で処分します。	

ポスター発表 (大学会館3F大集会室)

奇数番号コアタイム: 3月21日 11:00~12:00  
偶数番号コアタイム: 3月22日 8:30~9:30

6. 育種

P65	早生高WSC含量系統「東北8号OG」の特性 ○藤森雅博 <sup>1</sup> ・谷津英樹 <sup>2</sup> ・久保田明人 <sup>1</sup> ・秋山征夫 <sup>3</sup> ・田村健一 <sup>3</sup> ・横山 寛 <sup>2</sup> ・佐藤駿介 <sup>2</sup> ・眞田康治 <sup>3</sup> ( <sup>1</sup> 農研機構・東北農研・ <sup>2</sup> 雪印種苗(株)・ <sup>3</sup> 農研機構・北農研)
P66	トウモロコシS3およびS4系統への赤かび病接種検定 ○黄川田智洋・佐藤 尚(農研機構 北農研)
P67	寒地向け雑種系統の育成に向けたススキ属の耐凍性評価 ○眞田康治・小路 敦・田村健一・奥村健治(農研機構 北農研)
P68	エンドファイト感染フェストロリウムの幼苗での感染率 ○久保田明人・藤森雅博(農研機構 東北農研)
P69	エンドファイト( <i>Epichloë uncinata</i> , <i>E. occulta</i> )感染イタリアンライグラスの幼苗および種子における感染率の品種・系統間差 ○吉田信代 <sup>1</sup> ・清 多佳子 <sup>1</sup> ・森本信生 <sup>1</sup> ・菅原幸哉 <sup>1</sup> ・荒川 明 <sup>1</sup> ・佐々木 亨 <sup>2</sup> ・杉田紳一 <sup>2</sup> ( <sup>1</sup> 農研機構・ <sup>2</sup> 日本草地畜産種子協会)
P70	幼苗検定による硝酸態窒素濃度が低いスーダングラス系統育成の試み ○川地太兵・須永義人(農研機構 畜産研究部門)
P71	北海道向きフェストロリウム「北海1号」の収量および生育特性 ○田村健一 <sup>1</sup> ・田瀬和浩 <sup>1</sup> ・谷津英樹 <sup>2</sup> ・横山 寛 <sup>2</sup> ・高山光男 <sup>2</sup> ・眞田康治 <sup>1</sup> ・秋山征夫 <sup>1</sup> ( <sup>1</sup> 農研機構 北農研・ <sup>2</sup> 雪印種苗(株))
P72	本州中山間地における稲発酵粗飼料専用品種「たちあやか」の種子生産に関する研究 土方浩嗣・○大野和之・加藤知寿子・川口 優(家畜改良センター茨城牧場長野支場)
P73	BLUP法アニマルモデルのチモシー育種への適用の試み ○田中常喜 <sup>1</sup> ・田村健一 <sup>2</sup> ・足利和紀 <sup>1</sup> ・藤井弘毅 <sup>1</sup> ( <sup>1</sup> 道総研北見農業試験場・ <sup>2</sup> 農研機構 北農研)
P74	アカローパのブルガリア遺伝資源系統と国内育成品種の交配後代における播種年の特性と植物エストロゲン含量 ○佐藤広子・廣井清貞・奥村健治(農研機構 北農研)

7. 土壌肥料

P75	更新法の違いがオーチャードグラス採草地の収量と温室効果ガス取支に及ぼす影響 ○森 昭憲 <sup>1</sup> ・松浦庄司 <sup>2</sup> ・長竹 新 <sup>3</sup> ・波多野隆介 <sup>3</sup> ( <sup>1</sup> 農研機構畜産部門・ <sup>2</sup> 農研機構農環研・ <sup>3</sup> 北大院農)
P76	早春の追肥窒素量とプラウ耕の休止が土壌養分とイタリアンライグラス生産の変化に及ぼす影響 ○黒川勇三 <sup>1</sup> ・川村健介 <sup>2</sup> ・小櫃剛人 <sup>1</sup> ・積山嘉昌 <sup>1</sup> ・山口哲平 <sup>1</sup> ・木原真司 <sup>1</sup> ・脇良平 <sup>1</sup> ( <sup>1</sup> 広大生物圏・ <sup>2</sup> JIRCAS)
P77	草地表面へ施用した各種被覆尿素からの窒素溶出 ○山田大吾 <sup>1</sup> ・北川美弥 <sup>1</sup> ・志村宏夫 <sup>2</sup> ( <sup>1</sup> 農研機構 畜産研究部門・ <sup>2</sup> 山梨県子牛育成協会)

ポスター発表者は指定されたコアタイムにポスターの前で待機し、説明してください。  
ポスターは3月22日の12:30から13:00の間に撤去してください。13:00以降に掲示されている  
ポスターは大会事務局で処分します。



ポスター発表 (大学会館3F大集会室)

奇数番号コアタイム：3月21日 11:00~12:00  
偶数番号コアタイム：3月22日 8:30~9:30

7. 土壌肥料

P78 マンガン欠乏に起因するトウモロコシの葉脈間黄化症状  
○須永義人<sup>1</sup>・原田久富美<sup>1,2</sup>・川地太兵<sup>1</sup> (<sup>1</sup>農研機構畜産研究部門・<sup>2</sup>現農林水産省)

P79 低リン条件下における低フィチンダイズの生育反応  
小川舞子・秦 東・○実岡寛文 (広島大大学院生物圏科学研究科)

8. その他

P80 アースダムが持つ植物多様性保全機能について  
○工藤睦津美・岩間俊樹・臼田景暉・木村涼介 (青森県立五所川原農林高等学校 森林科学科)

P81 飼料作物品種情報データベースの利用に関するアンケート調査  
○宮川 咲・川口 優・加藤信夫 (家畜改良センター茨城牧場長野支場)

2. 造成・管理・栽培

P82 草地用ロボットトラクタによる牧草生産技術の開発 1. 草地の3次元形状がロボットトラクタの走行に及ぼす影響  
○関口建二<sup>1</sup>・横山和寿<sup>2</sup>・白藤大貴<sup>2</sup>・須藤賢司<sup>3</sup>・渡辺也恭<sup>3</sup>・鎌形哲稔<sup>4</sup> (<sup>1</sup>道総研根釧農業試験場・<sup>2</sup>ヤンマー株式会社・<sup>3</sup>農研機構北農研・<sup>4</sup>国際航業株式会社)

ポスター発表者は指定されたコアタイムにポスターの前で待機し、説明してください。  
ポスターは3月22日の12:30から13:00の間に撤去してください。13:00以降に掲示されている  
ポスターは大会事務局で処分します。